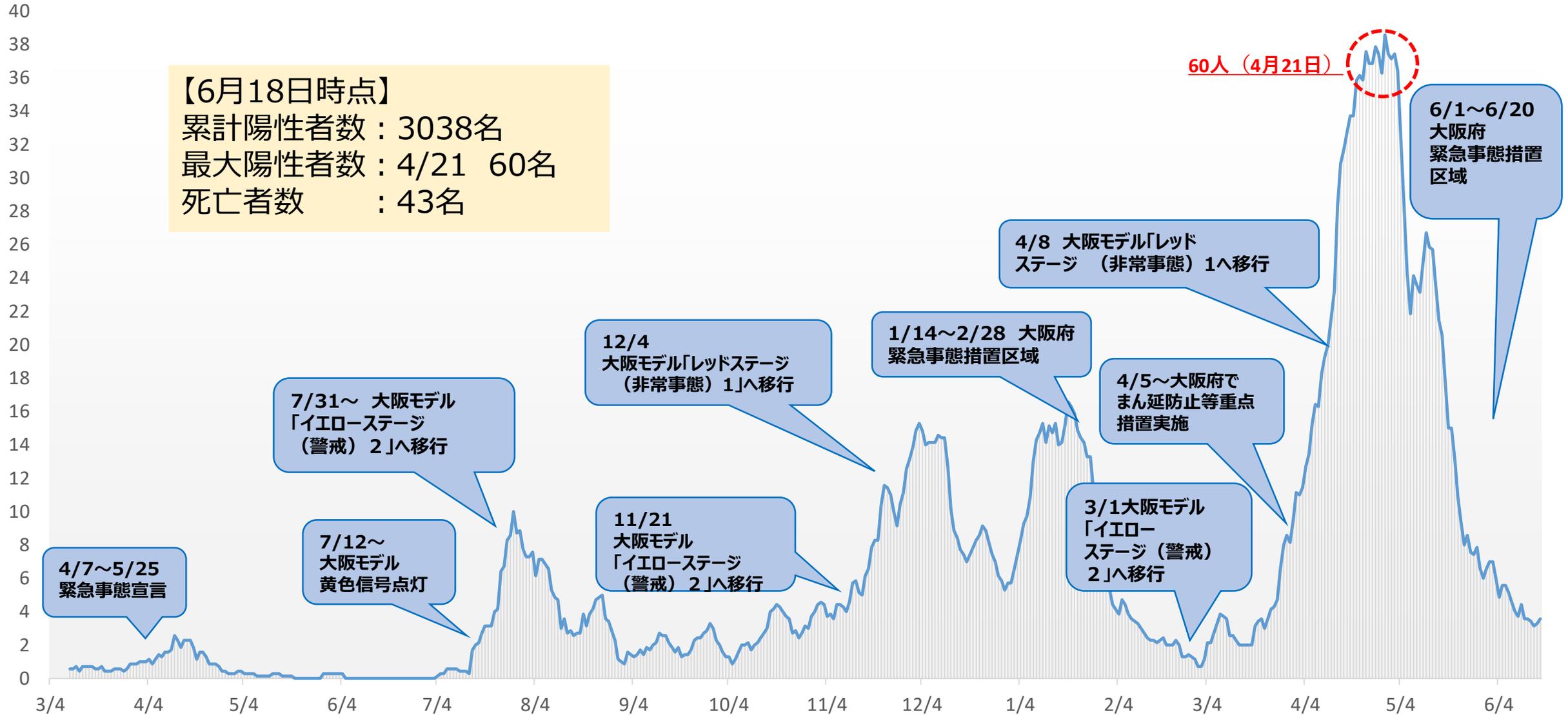


吹田市保健所 新型コロナウイルス感染症に対する 取組について

令和3年度吹田市保健所保健所運営協議会
令和3年（2021年）7月5日

吹田市内の新規陽性者数（直近7日間の平均）



【6月18日時点】

累計陽性者数：3038名
最大陽性者数：4/21 60名
死亡者数：43名

第1波

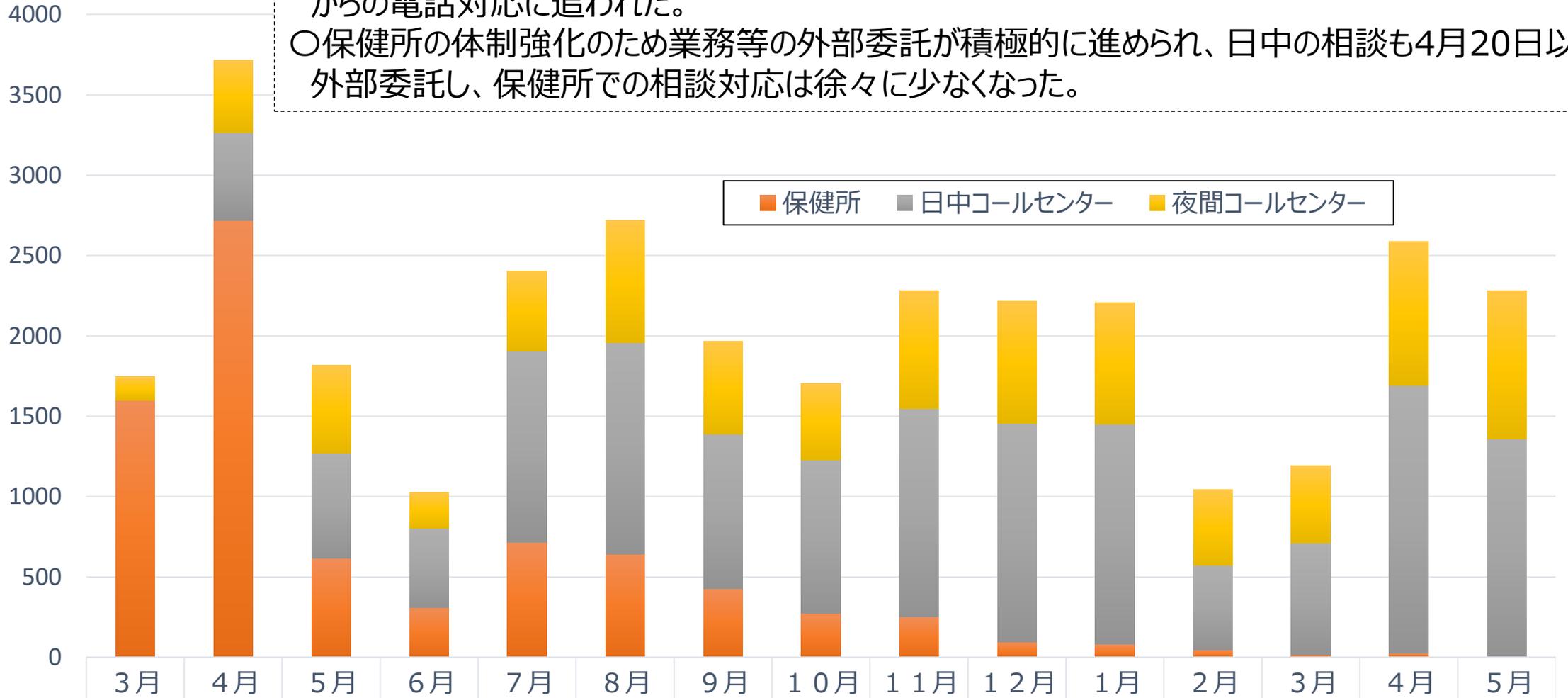
第2波

第3波

第4波

吹田市保健所の相談件数（月別）

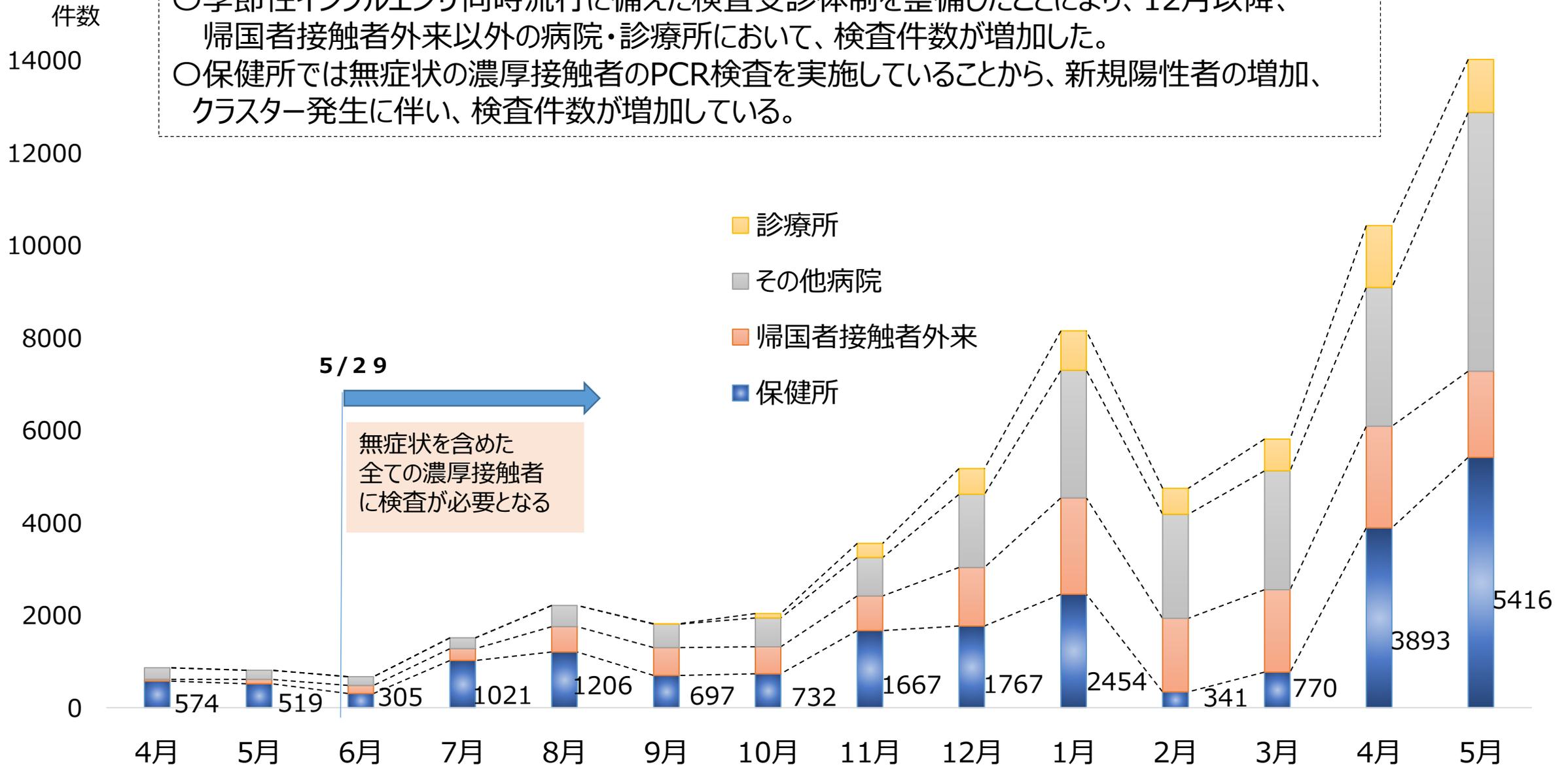
○令和2年3～4月は、第1波による感染拡大、緊急事態宣言を受け、感染の不安にかられる市民からの電話対応に追われた。
 ○保健所の体制強化のため業務等の外部委託が積極的に進められ、日中の相談も4月20日以降外部委託し、保健所での相談対応は徐々に少なくなった。



■ 夜間コールセンター	147	451	546	221	498	762	578	476	733	761	752	473	483	896	920
■ 日中コールセンター	0	544	655	494	1189	1320	963	953	1293	1359	1371	521	690	1666	1355
■ 保健所	1601	2721	616	311	716	639	425	275	253	97	82	48	19	25	5

管内の検査件数の推移

○季節性インフルエンザ同時流行に備えた検査受診体制を整備したことにより、12月以降、帰国者接触者外来以外の病院・診療所において、検査件数が増加した。
 ○保健所では無症状の濃厚接触者のPCR検査を実施していることから、新規陽性者の増加、クラスター発生に伴い、検査件数が増加している。



吹田市管内クラスター発生状況と院内感染対策連絡会議支援チームの派遣状況

- 市内では第2波以降、合計32件のクラスターが発生し、うち第4波の発生が半数以上を占めた。
- クラスターの種類では、高齢者・障がい者施設等関連が最も多く発生した。
- 医療機関や福祉施設等の発生時には、院内感染対策連絡会議支援チームを派遣し、早期収束に向けた支援を行った。

種類	第2波	第3波	第4波	合計	うち支援 チーム派遣
医療機関関連			4	4	3
高齢者・障がい者施設等関連	1	8	2	11	10
大学・学校関連		3	5	8	0
その他 (企業・スポーツ施設・習い事関連等)	1	2	6	9	0
合計	2	13	17	32	13

※クラスターとは1施設で5名以上の陽性者の発生があった場合をいう

※支援チームとは、市内医療機関の感染対策の専門家(ICD・ICN)で構成

(令和3年5月31日時点)

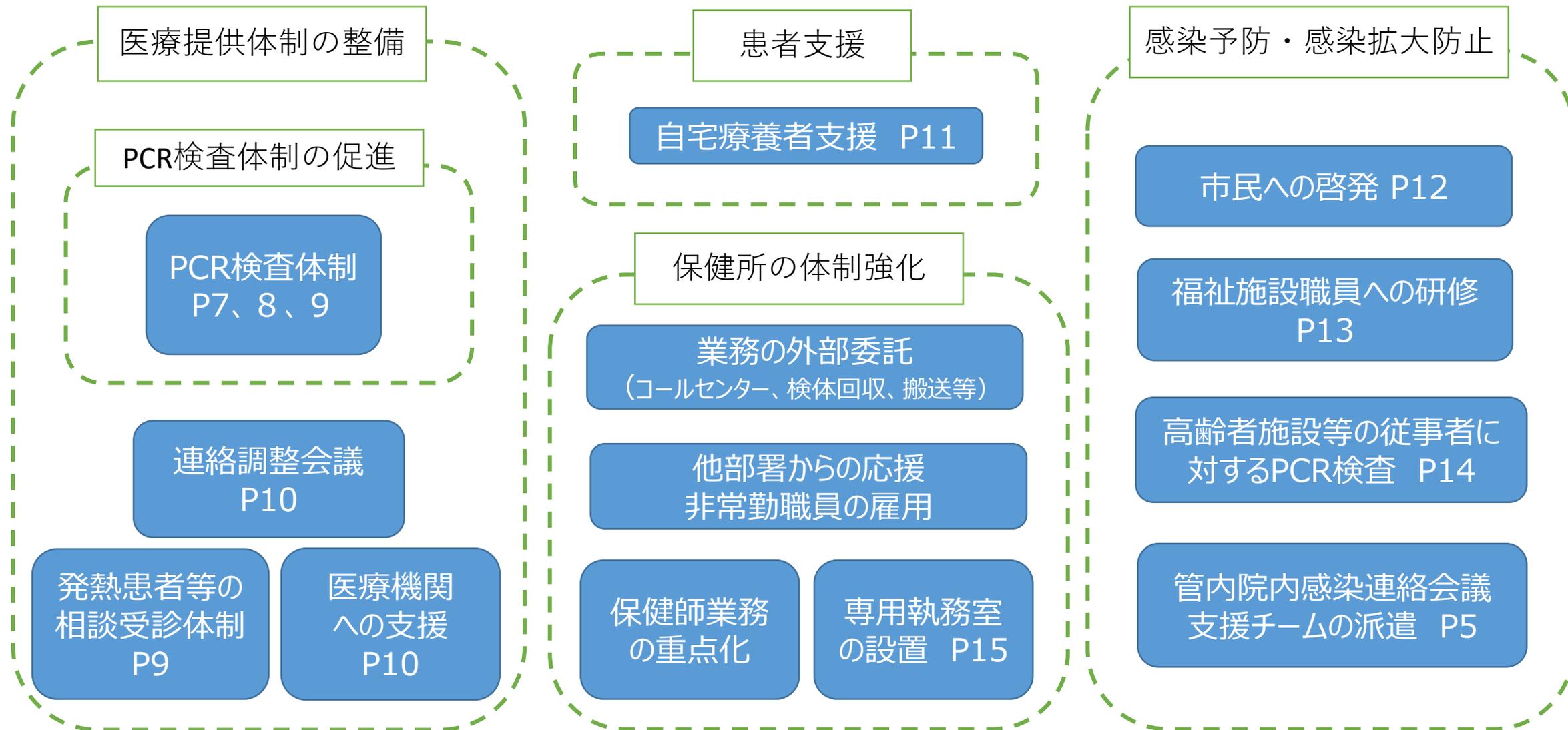
【高齢者・障がい者施設等関連】クラスターの特徴

- ・普段の感染対策が不十分 (健康管理・手指消毒・環境衛生・換気)
- ・認知症の人はマスクの着用や隔離が難しいと思込んでいる
- ・障がい特性より生活パターンの変化を生じる宿泊療養が難しく、グループホームで経過観察せざるを得ず感染が拡大等

【大学・学校関連】クラスターの特徴

- ・部活、サークル等でのマスクを外しての談笑や終了後の会食
- ・成人式、卒業式等イベント後の多人数での飲み会等

新型コロナウイルス感染症の課題に対する主な取組



その他の取組等は事務概要書のP12～P18も合わせてご参照下さい

ドライブスルー方式によるPCR検査 (5/7~6/30)

- 医師会委託により市内の病院駐車場（1カ所）で実施
対象は新型コロナ感染疑いの軽症者で、自身または家族の運転による車で来院可能な方
- 個人防護具のフル装備での暑さ対策や、車の無い人は利用が難しい等、改善点もあり、感染者数の減少に伴い6月末で終了

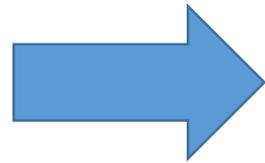


保健所での検体採取 (7/16～)

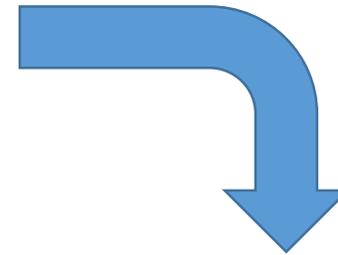
- 無症状者に対して唾液を用いたPCR検査が認められたことを受け、保健所薬剤師を中心とした検査体制を整備し、濃厚接触者等の検査に対応した。
- 現在までの最大検査件数 95件 (12月3日)
- 令和3年4～5月は連日50～80件対応した。



7～11月 災害用テントを利用



12～3月 自転車置き場を利用



3月11日～ モバイルクリニックを設置
現在は吹田市医師会に検体採取を委託



なんと強風で倒壊

【保健所を介さずに検査できる体制を整備】

① 医師会が設置した検体回収センターの運営を補助（9/23～）

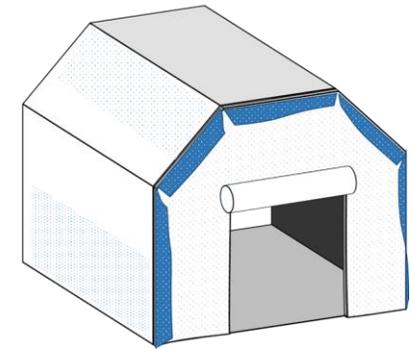
② 市内 2 病院に地域外来・検査センターを設置
（1か所目11/16～、2か所目12/14～）

※ かかりつけ医等身近な医療機関を受診した患者に対し新型コロナウイルス感染症の検査が必要と判断した方に対し受診を案内

③ 発熱等のある患者に対し大阪府が診療検査医療機関の指定（11/24～）

※ 市内56ヶ所（令和3年6月1日現在）

④ 有症状時は基本的に身近な医療機関に相談するよう広報等で市民に周知



医療提供体制の確保等のため関係機関会議の開催と医療機関への支援

- 会議では毎回、新型コロナウイルス感染症に関する最新知見を共有し、その時々課題について意見交換を実施。
- また各医療機関の感染対策の強化に繋げるため、患者が発生した医療機関での経験や気づきを共有している。

日付	会議名	参加機関	主な内容
4月9日(木)	新型コロナウイルス感染症に関する調整会議	医師会 歯科医師会 薬剤師会 管内15病院 消防本部 保健所	・検査体制の強化に向けた検体採取を行う医療機関等の確保について
4月16日(木)			・患者の受入病床の確保と救急医療体制の維持について
7月30日(木) ※オンライン開催			・検査体制の拡充、および院内感染対策の強化について
11月13日(金) ※オンライン開催			・発熱患者等の相談・診療・検査体制について
6月3日(水) ※オンライン開催	吹田市保健所管内 院内感染対策連絡会議	管内15病院 保健所	・院内感染対策に関する各病院の準備状況
2月5日(金) ※オンライン開催			・アフターコロナの受入れについて ・高齢者施設への支援状況について

その他医療機関への支援

- 当初、マスクや防護服が不足したことから国・府からの医療資材を配付。また阪大から提供された「手作り防護具」の作り方を共有
- 帰国者・接触者外来設置医療機関に対し、医療物資購入費用等の補助金を交付
- 市内医療機関（病院・診療所・薬局等）に対し、新型コロナウイルス感染症対策応援金を支給

自宅療養者へ自宅療養支援パックの配達 (12/14～)

○安心して自宅療養ができるよう、食料、飲料水の配達をはじめ、健康状態や症状の変化を迅速に把握するため、電子体温計、パルスオキシメーターを貸与



外出制限がかかるため、療養期間に合わせて届くよう迅速に手配している



パルスオキシメーター

発生届を確認した当日に配達
患者と対面しないよう玄関先に届けた

自宅療養中は
毎日看護師等
が健康観察

第4波以降、若い世代や基礎疾患のない人でも急変することが相次いだため、貸与対象者を全員に拡大

市民等への啓発と情報発信

- 厚生労働省等から発出される新しい知見に基づき、実際にあった事例を交える等、オリジナルな資料を作成し、保健所ホームページや市報すいた等を通じて、タイムリーに情報を提供してきた。
- また日々の業務を通じて感染者、医療従事者等への不当な差別等を察知したことから、市の対策本部会議で報告するとともに、国に先駆けて保健所長が啓発メッセージを市民に発信した。

【保健所ホームページ】

「新型コロナウイルス感染症はこうした経路で広がっています」
「府内の飲食店において多数の感染者が発生しています」
「感染リスクが高まる5つの場面と感染リスクを下げるポイント」
「感染が心配な時の受診・相談の窓口」

【保健所長からのメッセージ（8月掲載）】

「誰もが感染する可能性があり感染した方が責められるものではない。
不当な差別や偏見は絶対に許しません」

感染リスクが高まる「5つの場面」



吹田市保健所HPより

【市報すいた】

- 7月 ゼロ密作戦で暑い夏を乗り切ろう
- 8月 真夏の熱中症予防とコロナ感染防止
- 9月 感染者増加中。感染予防の徹底をお願いします
- 10月 感染予防の徹底 コロナ受診相談センター
- 11月 新型コロナに関する差別と偏見
- 12月 相談検査体制について
- 1月 感染対策の徹底 会食時の注意
- 2月 医療の逼迫
- 3月 コロナうつ

【管内5大学の学生への啓発】

- 4月 若い世代での感染拡大に対し注意喚起
- 10月 大学でのクラスター多発を受けて、再度注意喚起

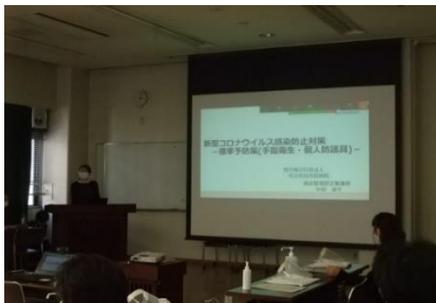
【飲食店への啓発】

- 8月 市内飲食店（約2,000店）に感染対策リーフレットを配付
- 3月 商店街の飲食店等に感染対策リーフレットを配付

施設内感染拡大防止のため高齢者施設等への研修を開催

- 平成27年より大阪府吹田保健所が事務局となり、高齢者施設等が市内病院の感染管理認定看護師に相談できるシステムを構築してきた。取組の一環として、吹田地区特別養護老人ホーム連絡協議会加入施設を対象に、感染対策リーダー育成研修を継続的に実施している。
- 3月には福祉施設等でのクラスター多発を受け、高齢福祉室と連携し、手指衛生や個人防護具の着脱等、実技を取り入れた研修を開催した。

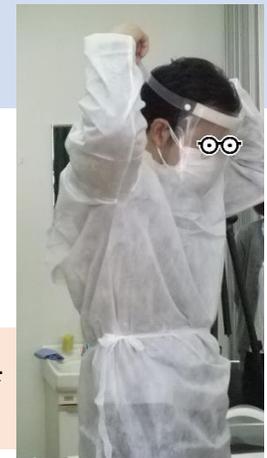
日付	講師	対象	参加機関	内容
8月4日(火) ※オンライン開催	以下病院の感染管理認定看護師 ・大阪大学医学部附属病院 ・済生会千里病院 ・済生会吹田病院 ・市立吹田市民病院 ・井上病院 吹田市保健所・高齢福祉室	吹田地区 特別養護 老人ホーム 連絡協議会 加入20施設	13施設	・新型コロナウイルス感染症の現状について ・持ち込まない、拡げないための感染対策
9月18日(金) ※オンライン開催			15施設	・陽性者発生時の初期対応について ・感染拡大予防について
3月24日(水) ※保健所開催 同時オンライン開催	以下病院の感染管理認定看護師 ・国立循環器病研究センター ・済生会千里病院 ・市立吹田市民病院 ・吹田徳州会病院 吹田市保健所・高齢福祉室	有料老人ホーム、 グループホームを含む 高齢者、障がい福祉 サービス事業所	会場参加 10施設 Web参加 21施設	・感染対策のポイントについて ・個人防護具の理解と適切な使用について ・福祉施設等への支援メニューの紹介



オンラインで
講義を実施



手洗いチェッカーを
使用した
手指衛生の実習



個人防護具
の着脱実習

高齢者施設等の従事者に対するPCR検査の実施 (3/1~3/31)

○感染者の増加に伴い高齢者、障がい者等福祉施設でのクラスターが急増した。
クラスターの発生は感染した職員から生じる傾向が高いことから、感染拡大リスクを最小限にするため職員等の集中的な検査を実施するよう国が通知したことを受け、市内福祉入所施設等を対象に実施した。

	施設数	人数
検査対象数	118	約4,000人
検査実施数	72	2,337人
陽性者数	0	0人

任意検査のため検査実施率（施設数） 61.0%

※検査結果に安心するのではなく、日頃の感染対策の徹底との両輪が重要である。

【参考】令和2年度 高齢者施設等での
市内クラスター発生状況

発生月	種別	陽性者数
11月	高齢者施設関連	14
11月	障がい者施設関連	10
11月	高齢者施設関連②	25
12月	障がい者施設関連②	16
1月	高齢者施設関連③	15
1月	高齢者施設関連④	10
1月	高齢者施設関連⑤	5

積極的疫学調査ではこんなケースがありました

- 積極的疫学調査は感染拡大防止のため濃厚接触者の把握と、陽性者の適切な管理を行うため実施している。
- なかなか真実をお話いただけないことや、忌避意識から不当な差別や中傷を受けるケースが複数発生していた。

真実を聞き出すのはなかなか大変！！

必要な療養期間を伝えると、さっき言った症状経過は勘違いだったと必死で訂正する。



成人式後、友人と飲み会・・・
実は80人規模の同窓会だった！
皆に感染したことを知られたくないと
なかなか話してくれず。

行動歴の聴取時、
「なぜそんなことまで話さないといけ
ないのか」と逆切れ！



根深い差別と偏見



家族が陽性者となり、
会社や学校に行けない。
検査を受けなければよかった・・・

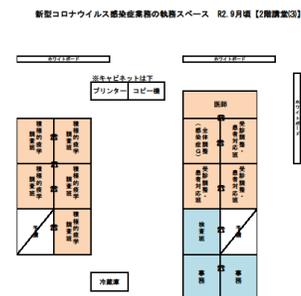
もし、子どもがいじめに
あったら、責任をとって
くれるんですか？



子どもが陽性となり施設のクラス
が休止、同じ施設の保護者から、
勤め先に非難の電話が入った！

保健師業務の重点化と専用執務スペースの整備

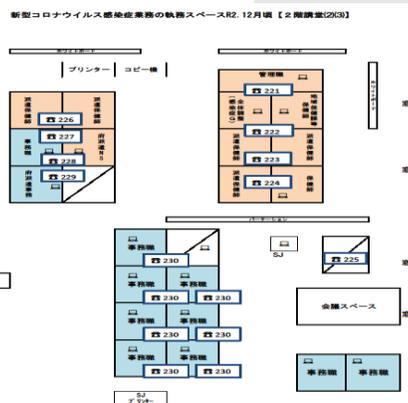
- 保健師が専門性の高い業務に注力できるよう、事務職、看護師等に業務を分業し、保健師業務を重点化した。
- 応援職員等の増加に対応し、かつ集中して業務行えるように新型コロナ専用執務スペースを設置した。



10月の座席表



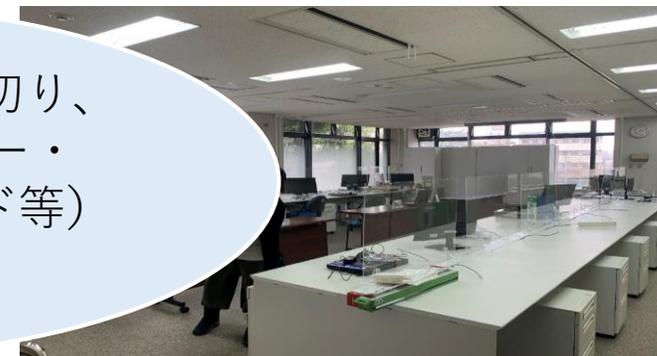
第3波への対応のため
人員が大幅に増加



1月の座席表

2階講堂を転用

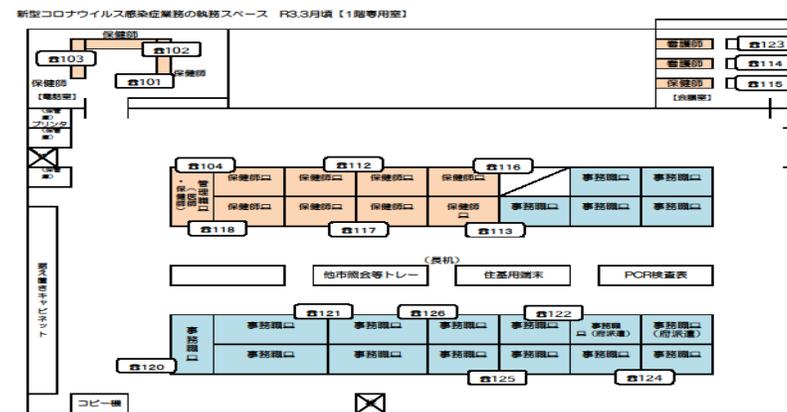
電話回線等増設、間仕切り、
ICT機器（大型モニター・
MAXHUB・コピーボード等）
の導入



1階健康まちづくり室を改装し
3/22～移転



第4波に備え、更に
執務スペースを拡大



3月以降の座席表

第4波（令和3年3月～）感染の急拡大により医療がひっ迫

- 府内では重症者の急増により重症者病床のひっ迫が続き、軽症中等症受入れ医療機関で治療を継続せざるを得ない重症患者が多数みられた。
- 市内でも4月以降、療養先が決まらず自宅待機となるケースが急増した。また急変して入院が必要な状態になっても入院先が決まらないケースが頻発した。

高齢者施設での陽性者が頻発

- ・入院先が決まらず、施設内で酸素投与しながら療養するケースや、夜間急変に伴う入院調整が相次いだ。



入院・宿泊療養の待機者が急増

- ・入院エントリーしても、すぐに入院できず、最大約20名の入院待機者を抱えた。
- ・入院・宿泊療養待機中に自宅で悪化するケースが相次ぎ、入院調整と並行して消防に酸素投与を依頼した。
- ・昼夜を問わず患者、家族からの相談が入るため、保健師が泊まり込んで対応した時期もあった。



重症化のスピードが速い

- ・基礎疾患のない40～50代の比較的若い世代であっても急激に悪化するケースが散見された。

療養は入院もしくは宿泊が基本であるが、介護や保育等、自宅療養せざるを得ないケースもある。また感染の急拡大により療養先の調整に時間を要する状況に備え、自宅療養者（療養先調整中を含む）が安心して療養できる体制整備が必要

次の感染拡大に備えて

項目	取組内容
保健所の体制強化	<ul style="list-style-type: none">・中核市の強みを活かし、フェーズに合わせた柔軟かつ迅速な人員配置を行う体制づくり・人材確保のためのIHEAT※の活用・民間企業（製薬会社）との人的支援に関する協定の締結・積極的疫学調査の重点化等、業務の効率化
自宅療養者等への医療提供体制の確保	<ul style="list-style-type: none">・市内医療機関による医療提供（往診・オンライン診療・訪問看護等）体制の整備・訪問看護師による健康観察が実施できる体制の整備・夜間休日における症状悪化時の相談・往診体制の整備（大阪府委託事業の活用）
医療機関・福祉施設での感染対策の強化	<ul style="list-style-type: none">・院内体制強化等についての情報提供・支援チームの活用と取組のフィードバック・中核市の強みを活かし福祉部との連携による福祉施設等への研修・支援の強化
ワクチン接種の推進	<ul style="list-style-type: none">・本市ワクチン接種実施計画に基づき、安全かつ迅速に接種できる体制（集団・個別）を整備・ワクチンに関する正しい情報の発信

※IHEAT（アイヒート）：国が創設した新型コロナウイルス感染症に係る保健所支援のための専門人材派遣の仕組み